

大学生の性格と推し活についての調査

福井 咲菜（文教大学情報学部メディア表現学科3年）

1. はじめに

「推し」「推す」という言葉を、現代を生きる人ならば一度は聞いたことがあるのではないだろうか。2021年に刊行された推し活に関連する論文内では、大学生の著者である齋藤が、「推し活とは、ファン活動として特定の人物・グループなどを応援し、可能な限りの金銭や時間、労力をつぎ込み愛情を注ぐといった意味合いで使われる言葉であり、「推し」とはその対象のことである」と定義付けている。（齋藤風韻、2021）

「推し」「推し活」という言葉には、まだはっきりとした定義付けがされていない。その理由として、現代の若者の推しが、3次元のアイドルグループ、音楽アーティスト、俳優、声優、スポーツ選手、歴史上の偉人、作家、ホスト、YouTuber、2次元のアニメ・ゲーム・漫画のキャラクター、ゆるキャラ、Vtuberなどの人物やキャラクターから、鉄道や建造物、仏像、刀剣、動物、水生生物まで、多岐に渡っていることが考えられる。推しているものが違えば、応援の仕方も変わる。まさに人の数だけ、その人の考える推し活が存在している状態なのだ。

そんな、はっきりとした定義のない推し活だが、その市場は毎年急激な成長を遂げている。2021年のアニメにおける経済効果は2,500億円、次いで2位のアイドルの分野も1,500億円と予想された。

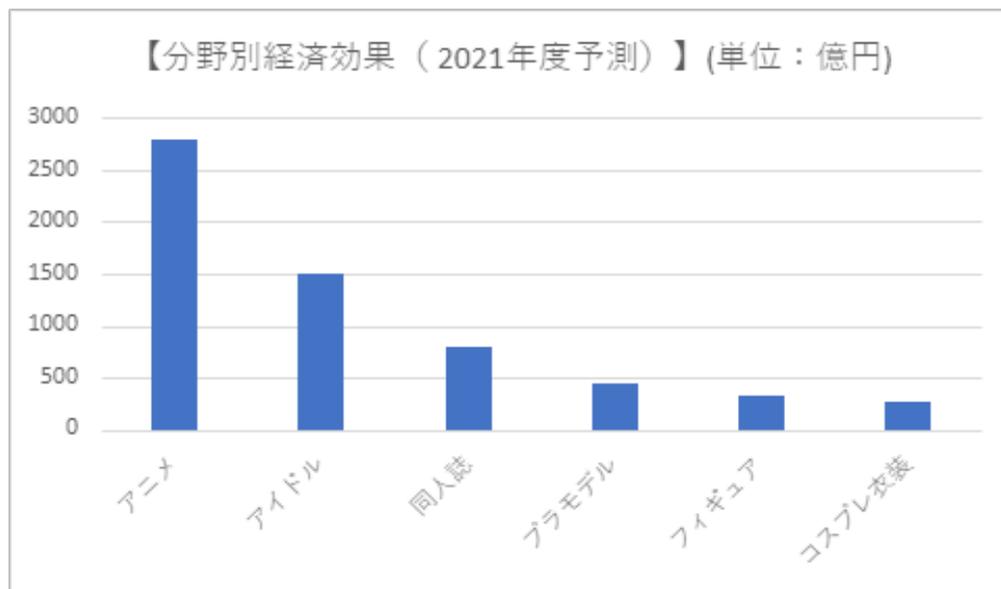


図1 分野別経済効果予想（2021年度）

「推し活」を題材にした漫画やドラマなども数多く存在している。2023年10月よりテレビ東京で放映されたドラマ『推しが上司になりました』では、芸能界を引退して、一般人として自分の上司となった推しに、自分がファンであることを悟られまいと奮闘する姿など、推しに対する「好き」という感情では表しきれない様々な感情が詳細に描写されており、話題となった。また、その主題歌「最高の推し」も、「あなたのいない毎日じゃ私は正直生きていけない」という歌詞など、推しのいる人の大多数が抱いたことがあるであろう、推しへ依存する気持ちや、推しへ盲目になるファン心理を表している歌詞が若者を中心に大きな共感をよび話題となった。

このように、各々が自分なりの推し活を楽しむ一方で、ホストクラブやメンズ地下アイドルなど、推しに多額を貢ぐことを推し活とする界限も存在している。まだ一般的には働くことのできない年齢である中学生をはじめとする、推しに多額を貢ぎたいと考える女性が、軽い気持ちからパパ活や風俗を始めてしまうケースも少なくない（現代メディア、2024年2月27日閲覧）。ホストクラブには、月末までに支払いをする契約で、その日の会計をつけ払いとする「売掛金」制度が存在している。XなどのSNSで「担当（ホスト）から掛け（売掛金）高額の会計となるシャンパンを注文するように煽られた」という内容の投稿があふれかえる中、2023年には、男性から約4000万円をだまし取り、詐欺罪で逮捕された女性が、そのお金のすべてをホストクラブの売掛金の支払いに充てていたことが話題となった（FRIDAI DIGITAL、2024年2月27日閲覧）。また、昨年8月にはアプリゲーム「あんさんぶるスターズ！」のイベント会場にて、ファン同士の殴り合いの喧嘩が勃発し、場を騒然とさせる事件が起こった。目撃情報などから、この事件は、同担拒否同士の言い争いから発展したものとされている（同担拒否まとめ.com、2024年2月27日閲覧）。

ネットの記事によると、同担拒否の人達の心理には、主に「嫉妬心」や「自分がいちばん」というような感情がある人が多いそうだ（同担拒否まとめ.com、2024年2月27日閲覧）。どのような性格の持ち主が同担拒否的な思考になりやすいのかが明らかになれば、ファン同士のトラブルを防止することにつながるのではないかと私は考える。本調査では、推し活に関連したトラブルに巻き込まれやすい人には、どのような傾向があるのかを明らかにするために「大学生の推し活に対する意識や実態」と、「収入」や「継続応援年月」、「各々の性格」の関連について調査をおこなった。

2. 調査研究の方法

2-1. 調査概要

本調査の実施概要は以下の通りである。

- ・調査実施時期：2023年11月14日～2023年12月4日(11/28日再送信)
- ・調査対象：文教大学 湘南・越谷・あだちキャンパスの学生
- ・調査人数：標本数 1175 票（内不在 23 票）
- ・有効回答数：135 票 回答率 11.4%

2-2. 調査項目

調査項目は、大別して<回答者に関する項目>、<回答者の「推し活(趣味)」に関する項目>、<回答者の性格に関する項目>。以上3つによって構成した。

以下、主な項目の詳細。

<回答者に関する項目>

「性別」や「年齢」など、回答者の基本的な項目に加え、「アルバイトの数」や「給与の受け取り方法」について、回答者の収入に関する項目も設けた。

<回答者の「推し活(趣味)」に関する項目>

回答者の「推し(趣味)の有無」や、それらに対して「どの程度の支出をおこなっているか」を調査した。「推し(趣味)にどのような精神的刺激を求めているか」についての項目も設けた。

<回答者の性格に関する項目>

回答者の責任感について、「ビッグファイブ」の責任感の項目を、回答者の自己肯定感について、「自己肯定感に関する影響要因」の質問項目を用いて調査した。また、回答者の将来の不安についての項目も設けた。

2-3. 調査方法

Google フォームを利用したインターネット調査を実施。サンプリングで抽出した該当者のメールアドレスへ、Google フォームの URL を添付したメールを送信した。

サンプリングは、学部ごとに層化抽出法を用いた。以下、学部別割り当て表。

表 1.学部割り当て表

キャンパス	学部	学科	学科別学生数	学部学生数	割合	割り当て数 (切り上げ)
湘南校舎	情報	情報システム	430	1242	75.50%	168
		情報社会	382			
		メディア表現	430			
	健康栄養	管理栄養学科	404	404	24.50%	55
合計			1646	20.20%	223	
東京あだち校舎	経営	経営学科	717	717	39.20%	97
	国際	国際理解学科	564	1114	60.80%	151
		国際観光学科	550			
合計			1831	22.50%	248	
越谷校舎	教育	学校教育	914	1492	32.00%	202
		心理教育	101			
		発達教育	477			
	人間科学	人間科学	614	1730	37.10%	234
		臨床心理	526			
		心理	590			
	文学	日本語日本文学科	503	1435	30.80%	195
		英米語英米文学科	370			
中国語中国文学科		309				
外国語学科		253				
合計			4657	57.30%	631	
全合計			8134	8134	サンプル数	1102

3.調査結果

3-1.回答者の基本属性

3-1-1 回答者の年齢・性別

回答者 135 人の基本属性に関して、「性別」は、【男性】が 43 人(33.1%)、【女性】が 87 人(66.9%)であった。

「年齢」は、【18 歳】が 17 人 (12.7%)、【19 歳】は 41 人 (30.6%)、【20 歳】は 24 人 (17.9%)、【21 歳】は 31 人 (23.1%)、【22 歳】は 18 人 (13.4%)、【23 歳以上】は 3 人 (2.2%) となった。

3-2.回答者の収入状況

3-2-1.回答者の月の収入

回答者の月の収入額は、【0～2 万円】が 28 人(20.7%)、【2～5 万円】が 38 人(28.1%)、【5～10 万円】が 65 人(48.1%)、【10～15 万円】が 4 人(3.0%)であった。

3-2-2.回答者のアルバイトの数

回答者のアルバイトの数は、【1 つ】が 75 人(56%)、【2 つ】が 29 人(21.6%)、【3 つ】が 3 人(2.2%)、【4 つ】が 2 人(1.5%)、【していない】が 25 人(18.7%)であった。

3-3.回答者の基本「推し活(趣味)」情報

3-3-1.回答者の推しの有無

推しがいるかという設問(質問紙では「金銭の有無に関係なく応援している人」という補足を付けている)に対して【はい】と答えたのは 92 人(68.1%)、【いいえ】と回答したのは 43 人(31.9%)であった。

3-3-2.推しの職業

回答者の推しの職業で、もっとも多かったのは【アイドル】で 31 人(33.7%)、次に多かったのが【アニメ、漫画のキャラクター】で 12 人(13.0%)、その次に多かったのが【アーティスト】で 11 人(12.0%)だった。地下アイドルや韓国アイドルなど、幅が広く母数の多いアイドルのファンは、他の選択肢に比べて回答が多かった。

表2.推しの職業

推しの職業		
アイドル	31	33.7
アニメ漫画キャラ	13	14.1
アーティスト	12	13

3-3-3.推しへの年間の出費金額、内容

推しへの年間の出費金額は、【3万円以上5万円未満】がもっとも多く25人(27.2%)、【1万円以上3万円未満】が19人(20.7%)【1万円未満】が17人(18.5%)であった。

また、出費の内容は、1番多かったのが【グッズ代】で80人(87.0%)、2番目に多かったのが【ライブやイベントのチケット代】で63人(68.5%)、3番目に多かったのが【CD代】で45人(48.9%)であった。

表3.推し活への出費

推し出費		
3万円以上5万円未満	25	27.2
7万円以上9万円未満	24	26.1
1万円以上3万円未満	19	20.7

3-3-4.推しを推している年月

回答者の推しを推している年月(=歴)は、最も多かった回答が【5年以上】37人(40.7%)であった。次に多かったのが【1年以上2年未満】12人(13.2%)、【2年以上3年未満】が20人(22.0%)という結果となった。

表4.継続応援年月

年月		
5年以上	37	40.7
2年以上3年未満	20	22
3年以上4年未満	9	9.9

3-3-5. 推しに対して恋愛感情を抱いたことはあるか

推しに対して恋愛感情を抱いたことはあるか、という設問に対して【ある】と回答したのは16人(17.4%)、【ない】と回答したのは76人(82.6%)であった。

3-3-6. 趣味または「推し」に関連する出費が金銭的につらいと感じることはあるか

趣味または「推し」に関連する出費が金銭的につらいと感じることはあるかという設問に対して、最も多かった回答は【あまり感じない】41人(30.6%)であった。次に多かったのが【感じない】39人(29.1%)、【少し感じる】が37人(27.6%)という結果となった。

表 5. 出費がつらいと感じるか

金銭的につらいと感じるか		
感じる	17	12.7
少し感じる	37	27.6
あまり感じない	41	30.6
感じない	39	29.1
合計	134	100

3-3-7. 推し活に対する感情

推し活に対して回答者がどれだけ「義務感」「達成感」「劣等感」「金銭的につらいか」という感情を持っているかを調査したところ、回答者がいちばん推し活に持っている感情は「義務感」であることが分かった。(1に近づくほど感情が強い)

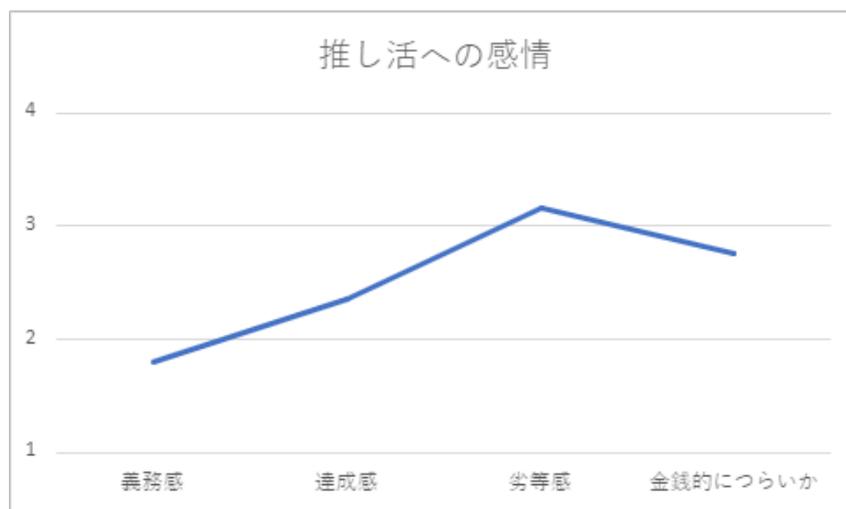


図 2. 推し活への感情

3-3-8. 押し活において劣等感を感じる状況の要因

押し活において、回答者がどのような状況で同じ存在を推している人に劣等感を感じるかを調査したところ、回答者の押し活において他人に劣等感を感じる要因で一番多かったのは「金銭面」であった。

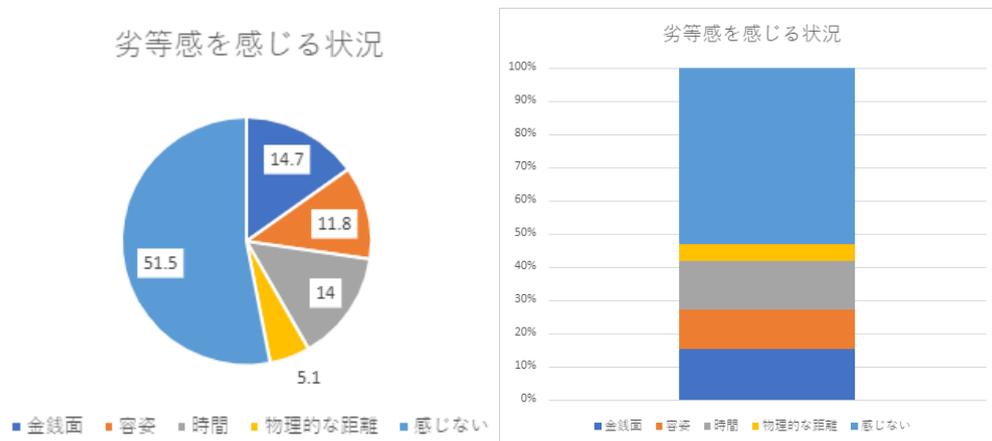


図 3、4. 劣等感を感じる状況

3-3-9. 押し活や趣味に求める感情

押し活や趣味において、回答者が「非日常感」「幸福感」「癒し」「刺激」「スリル」をどの程度求めているかを調査したところ、回答者がいちばん求めている感情は、「癒し」であることが分かった。次いで、僅差で「幸福感」が多かった。

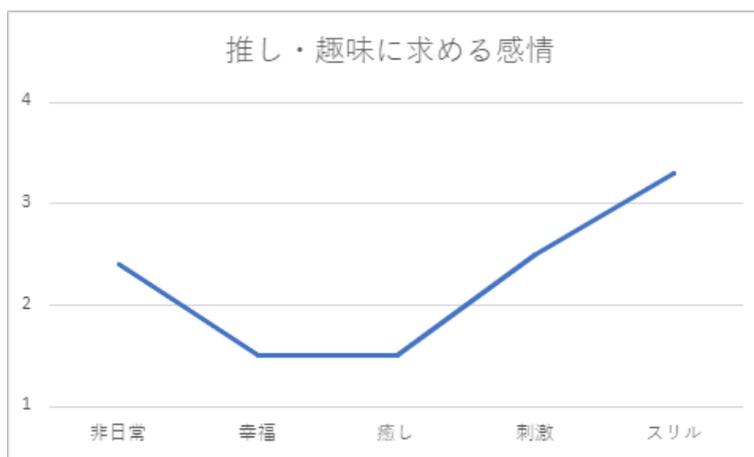


図 5. 押し・趣味に求める感情

3-4.推しの職業と認知度の関連

推しの職業と認知度についてクロス集計を行なったところ、($\chi^2=53.11(30),P<.01$)という結果が得られた。このことから、推しの職業と認知度には関連があることが分かった。

表 6.推しの職業と認知度のクロス集計表

仕事と認知度のクロス表					
仕事	認知度				合計
	世界	日本	一定	知られてない	
スポーツ選手	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
アイドル	6 19.40%	16 51.60%	9 29.00%	0 0.00%	31 100.00%
配信者	0 0.00%	0 0.00%	3 75.00%	1 25.00%	4 100.00%
アニメ漫画キャラ	4 30.80%	1 7.70%	8 61.50%	0 0.00%	13 100.00%
アーティスト	5 41.70%	5 41.70%	1 8.30%	1 8.30%	12 100.00%
俳優	2 33.30%	3 50.00%	0 0.00%	1 16.70%	6 100.00%
歌手	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
声優	0 0.00%	1 25.00%	3 75.00%	0 0.00%	4 100.00%
VTuber	1 16.70%	2 33.30%	3 50.00%	0 0.00%	6 100.00%
ゲームキャラ	0 0.00%	0 0.00%	9 100.00%	0 0.00%	9 100.00%
その他	1 20.00%	0 0.00%	4 80.00%	0 0.00%	5 100.00%
合計	19 20.70%	28 30.40%	42 45.70%	3 3.30%	92 100.00%

3-5. 仮説の検証

本調査は、大学生の「推し」、「推し活」に対する意識を調査することを目的として実施した。具体的には、「推し活」に多額をつぎ込む人と、そうでない人では「推し」や「推し活」に対する考えにどのような違いがあるのかを明らかにすること、また、しばしばインターネットで話題に上がる「同担拒否」について、どのような性格を持っている人が「同担拒否」になりやすいのかを明らかにすることだ。

(補足) なお、同担拒否とは「同じ存在を推している人に嫌悪感を感じる(相手を拒否すること)」である。同じ存在を推している人を拒否することは、推しに対してファンが強い独占欲をもっていることを意味する。同担拒否を分析することで、推しを独占したいと考え、なお、この同担拒否は、〇〇について尋ねる質問○と〇〇選んで回答させる質問○を用いて測定してある。

この目的を達成するため、本調査に6つの仮説を立てた。

【仮説1】あるものを推している期間が長いほど、1か月あたりの出費が多く、また、同担拒否的な思考になりやすいのではないかと。

【仮説2】義務感で推し活をしている人は、推し活への出費が多いのではないかと。

【仮説3】推し活に義務感を持っている人は、推し活への出費をつらいと感じているのではないかと。

【仮説4】推し活に義務感を持っている人は、同担拒否になりやすいのではないかと。

【仮説5】推し活の傾向は責任感に関係しているのではないかと。

【仮説6】推し活の傾向は、自己肯定感に関係しているのではないかと。

この仮説を立てた理由は二つある。

一つ目は、私の経験から、長く同じ人を推している人は、純粋に推しが好きだから、応援したいからという理由ももちろんあるものの、長く推していること、その期間お金をかけてきたプライドから生まれた義務感で推し活を続けていると感じたことがあるため、推し活に関連したトラブルが起こる原因に「継続応援年月」と「義務感」、「責任感」があげられるのではないかと考えたからだ。

二つ目は、同担拒否について取り上げる理由についてだ。こちらも私の経験から、ネット上や自分の身の回りで、同担拒否に関するトラブルが定期的な頻度で起こっており、どのような人が同担拒否になりやすいのか、傾向があるかを調べるためである。

仮説の検証結果

【仮説 1】

「あるものを推している期間が長いほど、推し活への出費が多いのではないか、また、同担拒否的な思考になりやすいのではないか」という仮説について、独立変数を「D-4 継続応援年月」とした。「継続応援年月」の選択肢は6つあるが、「3年未満（全体の45.1%）」を「短い」、それ以上を「長い（全体の54.9%）」として、以下の分析を行った。

従属変数は、（同じ人を推しているひとに対しての）「F-4 劣等感」「D-8 拒否感」「H-1 推し活への責任感」とし、一元配置分散分析を行った。

しかし、結果は全ての項目に有意な関連は見られなかった。

また、「D-3 出費の多さ」の6つの選択肢を、「5万円未満（全体の66.4%）」を「少ない」、それ以上を「多い（全体の33.6%）」として関連をカイ二乗検定で検定したところ、有意な関連は見られなかった。

このことから、継続応援年月の長さは推し活の状況に影響しないことが分かった。

【仮説 2】

「義務感で推し活をしている人は、推し活への出費が多いのではないか」という仮説について、独立変数を「F-2 義務感」とした。「義務感」の選択肢は4つあるが、「（義務感を）持っている、少し持っている」を「義務感がある（全体の20.3%）」、「あまり持っていない、持っていない」を「義務感を持っていない（全体の79.7%）」として、義務感を持っている群と持っていない群に分け、以下の分析を行った。

推し活への出費を従属変数として関連をカイ二乗検定で検定したところ、 $(\chi^2=9.47(4), P<.05)$ という結果となり、仮説が支持された。

このことから、義務感の強さは、推し活への出費の状況に影響を与えることが分かった。

【仮説 3】

「推し活に義務感を持っている人は、推し活への出費をつらいと感じているのではないか」という仮説について、独立変数を「F-2 義務感」とし、仮説2と同じ方法で「義務感を持っている郡」と「持っていない郡」に分け、以下の分析を行った。

推し活への出費を辛いと感じているかを従属変数として、一元配置の分散分析で関連を調べた結果、義務感を持っている群の平均値2.4、義務感を持っていない群の平均値2.9となり（ $F=4.1(132), P<.05$ ）仮説が支持された。

このことから、義務感の強さは、推し活への出費をつらいと感じるかどうかに影響を与えることが分かった。

【仮説 4】

「推し活に義務感を持っている人は、同担拒否になりやすいのではないか」という仮説

について、独立変数を「F-2 義務感」とし、仮説2を同じ方法で「義務感を持っている郡」と「持っていない郡」に分け、以下の分析を行った。

同じ人を推している人への拒否感を従属変数として、一元配置の分散分析で関連を調べた結果、義務感を持っている群が平均値 2.7。義務感を持っていない群が平均値 3.3 となり (F=8.7(132),P<.01)仮説が支持された。

このことから、義務感が強い人は、同担拒否になりやすいということが分かった。

3-6.回答者の性格について

過剰な推し活や、推し活においてトラブルの起こりやすい同担拒否的思考と、責任感、自己肯定感の関連を調べるために、以下の方法により回答者の責任感と自己肯定感を測定した。

【責任感について】

本調査では、「ビッグファイブ」短縮版の主要5因子のうちの「誠実性」を引用し、回答者の責任感を測定した。

表 7.責任感について

	優劣	他人との壁	個性	積極性	孤独	平均値
変な目で見られたくない	0.86	0.104	-0.123	0.021	-0.014	2.24
自分のイメージを崩したくない	0.815	0.037	-0.151	-0.13	-0.05	2.04
人に気を使いすぎて疲れる	0.716	0.195	-0.209	-0.078	0.128	2.67
自分と他人の優劣が気になる	0.714	0.272	-0.151	-0.084	0.134	2.68
自分がどう見られているかが気になる	0.693	0.137	-0.198	-0.347	0.139	2.8
他人によく思われていたい	0.679	0.094	0.058	-0.049	0.301	2.83
無理して人に合わせようとしている	0.66	0.274	-0.119	-0.219	0.272	3.09
独りぼっちだと感じる	0.442	0.397	-0.293	-0.159	0.366	3.28
人を信用しない	0.042	0.823	-0.191	-0.162	0.017	3.05
他人に心を閉ざしている	0.323	0.755	-0.084	-0.308	0.032	2.77
他人との間に壁を作っている	0.297	0.744	-0.054	-0.287	0.184	2.79
人間関係を煩わしいと感じる	0.174	0.719	-0.003	-0.198	0.222	2.84
心から楽しいと思えない	0.175	0.585	-0.309	0.017	0.363	3.71
個性を大切にしている	-0.149	-0.011	0.847	0.148	-0.156	2.01
自分の個性を受け入れている	-0.244	-0.238	0.81	0.072	0.054	2.38
自分なりの人生があってもいい	-0.05	-0.022	0.806	0.065	-0.232	1.73
自分のありのままを受け入れている	-0.208	-0.217	0.78	0.232	-0.008	2.52

H-1の回答者の性格についての設問から、回答者の責任感を測定するために、バリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果、3つの因子に分類することができた。第一因子には「勤勉だと思う」や「計画性のある方だと思う」などの生活に対する取り組みに関する項目が高い因子寄与率で抽出されたため、「ルーズ」因子と名付けた。第二因子には「無節操であると思う」や「不精な性格だと思う」などの項目から「軽率」因子とし、第三因子には「他人と比べて優れている点がある」や「成り行き任せな性格であると思う」などの項目から「自信」因子とした。

【仮説5】

「推し活をしている人は責任感がある」という仮説について、独立変数を「H-1 責任感」とし、以下の分析を行った。責任感の尺度は、7段階に分かれている(1に近づくほど責任感が強い)が、「1~3(全体の50.3%)」を「責任感が強い」、それ以上を「責任感が弱い(全体の49.7%)」として、以下の分析を行った。

従属変数は、「出費の多さ」、「推しへの恋愛感情」「(同じ人を推しているひとに対しての)劣等感」とし、一元配置分散分析を行った。

しかし、全ての項目に有意な関連は見られなかった。

一方で、推し活には関係のない「将来への不安」について一元配置の分散分析をおこなったところ、有意な結果が得られた($F=11.8(1), P<.001$)。

このことから、責任感の強さは、推し活へののめりこみややすさに影響しないことが分かった。

【自己肯定感について】

本調査では、自己肯定意識尺度を引用し、回答者の自己肯定感を測定した。

表 8.自己肯定感について

	優劣	他人との壁	個性	積極性	孤独	平均値
変な目で見られたくない	0.86	0.104	-0.123	0.021	-0.014	2.24
自分のイメージを崩したくない	0.815	0.037	-0.151	-0.13	-0.05	2.04
人に気を使いすぎて疲れる	0.716	0.195	-0.209	-0.078	0.128	2.67
自分と他人の優劣が気になる	0.714	0.272	-0.151	-0.084	0.134	2.68
自分がどう見られているかが気になる	0.693	0.137	-0.198	-0.347	0.139	2.8
他人によく思われていたい	0.679	0.094	0.058	-0.049	0.301	2.83
無理して人に合わせようとしている	0.66	0.274	-0.119	-0.219	0.272	3.09
独りぼっちだと感じる	0.442	0.397	-0.293	-0.159	0.366	3.28
人を信用しない	0.042	0.823	-0.191	-0.162	0.017	3.05
他人に心を閉ざしている	0.323	0.755	-0.084	-0.308	0.032	2.77
他人との間に壁を作っている	0.297	0.744	-0.054	-0.287	0.184	2.79
人間関係を煩わしいと感じる	0.174	0.719	-0.003	-0.198	0.222	2.84
心から楽しいと思えない	0.175	0.585	-0.309	0.017	0.363	3.71
個性を大切にしている	-0.149	-0.011	0.847	0.148	-0.156	2.01
自分の個性を受け入れている	-0.244	-0.238	0.81	0.072	0.054	2.38
自分なりの人生があってもいい	-0.05	-0.022	0.806	0.065	-0.232	1.73
自分のありのままを受け入れている	-0.208	-0.217	0.78	0.232	-0.008	2.52
友人に自分から話しかける	-0.054	-0.285	-0.085	0.735	-0.094	2.88
納得がいくまで話し合いができる	-0.069	-0.184	0.026	0.73	-0.019	2.93
疑問を堂々と主張できる	-0.223	-0.05	0.206	0.656	0.126	3.1
真剣に話し合いができる	-0.088	-0.184	0.288	0.636	-0.351	2.16
気を配りながら自分の言いたいことが言える	-0.077	-0.05	0.298	0.531	-0.353	2.38
人前でもありのまままでいられる	-0.228	-0.338	0.305	0.502	0.312	3.13
友達との会話がうまくいかない	0.328	0.339	-0.061	-0.122	0.725	3.91
友達と一緒にいても寂しく悲しい	0.343	0.259	-0.359	-0.038	0.691	4.01
固有値	4.73	3.6	3.47	3.01	2.03	
寄与率	18.92%	14.40%	13.87%	12.05%	8.11%	
累積寄与率					67.34%	

H-2 から H-4 の回答者の性格についての設問から、回答者の自己肯定感を測定するために、バリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果、5つの因子に分類することができた。第一因子には「他人との優劣が気になる」や「自分のイメージを崩したくない」などの他人との優劣に関する項目が高い因子寄与率で抽出されたため、「優

劣」因子と名付けた。第二因子には「他人との間に壁を作っている」や「人間関係を煩わしく感じる」などの項目から「他人との壁」因子とし、第三因子には「個性を大切にしている」や「自分の個性を受け入れている」などの項目から「個性」因子と名付けた。第四因子には「友人に自分から話しかける」や「疑問を堂々と主張できる」などの他人との関わりとの積極性に関する項目が高い因子寄与率で抽出されたため「積極性」因子とし、第五因子には「他人との会話がうまくいかない」や「友達と一緒にいても寂しく悲しい」という項目から「孤独」因子と名付けた。

【仮説6】

「推し活の傾向は、自己肯定感に関係しているのではないか」という仮説について検討した。独立変数は、「出費の多さ」とし、仮説1と同じ方法で「出費が多い郡」と「出費が少ない郡」に分けた。従属変数は、上記の「H-2~4 自己肯定感」を因子分析した際に出た各因子の因子得点である。

しかし、有意な関連は見られなかった。

一方で、「推しへの恋愛感情」を独立変数として、一元配置の分散分析をおこなったところ、「優劣」因子について有意な結果が得られた($F=6.64(1), P>.05$)。

また、「(同じ人を推している人への)劣等感」について同様の分析をおこなったところ、「優劣」因子と「孤独」因子において有意な結果が得られた($F=7.59(3)P>.001$)、($F=2.91(3)P>.05$)。

このことから、「現実離れした恋愛思考になりやすさ」と、「同担拒否になりやすさ」は、「他人との優劣を気にしているか」と、「孤独感」に関係があるといえる

4.まとめ

調査結果から、継続応援年月と同じ人を推している人に対する劣等感、拒否感の強さ、推し活への出費の多さには関連がないが、義務感で推し活をしている人は、出費が多く、その出費をつらいと感じており、同担拒否になりやすいということがわかった。

私は、仮説1を検証するまで、過去の自身の経験から、応援継続年月は同担拒否のなりやすさや、出費の多さに関連があると考えていたため、検証結果にとっても驚いた。しかし、今までの経験や周りに仮説1を重ね合わせて考えてみると、自他ともに「推し始め」や「ハマりたて」のスタートダッシュで盲目的に趣味や推し活に励んでいた記憶があるため、継続応援年月と各項目に関連がなかったことは当然だと考えた。推し活や趣味のスタートダッシュ(金銭面、熱量など)によって、その後の推し活や趣味に違いが出るのかについても調査できたら面白いと思った。

義務感については、おおよそ予想通りであった。自身も、推し活に対して義務感を感じていた時期に、義務感から出費が多くなったり、自分と他人の推し方を見比べて落ち込んだり、妬ましく思っていたことがあったため、やはり心身ともに健康的な推し活のためには推しや趣味との程よい距離感が大切なのだと実感した。

また、自己肯定感と、推しに対して恋愛感情を抱くか、同じ人を推している人に劣等感を抱くかに関連がみられたことから、同担拒否として他人を傷つけてしまったり、他人と競うような形で推しへの出費を繰り返してしまう人は、同じような自己肯定感の高さである可能性があることが分かった。今日、ホストの定番の営業方法は、客に恋愛感情の恋愛感情を利用しての「色恋営業」といわれる方法である。自己肯定感が低く、恋愛慣れしていないような人物は、ホストクラブで出会った人へ恋愛感情を抱きやすく、また、同担拒否であるため同担に引けを取らないために、自分のキャパシティを超えた支出をして、推しに貢献、存在を認めてもらうことで自己肯定感を保っているのかもしれないと感じた。

義務感で推し活をすることを避けつつ、自己肯定感を高く保つような生活を送る人が増えれば、近年、問題となっている推し活に関連するトラブルが減ったり、推し活を通して破産する人が少なくなるのではないだろうかと考える。

5. 参考文献

三和綜合印ウェブサイト「推し活ブーム だから知っておきたい 推し事、オタ活との違い」2023/07/26https://www.sanwasp.com/blog_23... (2024年2月27日閲覧)

東京テレビウェブサイト「ドラマ NEXT 推しが上司になりまして」<https://www.tv-tokyo.co.jp/oshijyo...> | (2024年2月27日閲覧)

Yahoo!news FNN プライムオンライン「歌舞伎町ホストが「売掛金廃止」表明 20

歳未満の入店を断る方針も…ホスト代表「改めて価値ある接客・サービスに立ち返りたい」
OSIMOA「オタクは経済を回す！推し活の経済効果と市場規模をオタクが解説」
(2024年2月27日閲覧)

<https://oshimoa.com/oshikatsu/292/#:~:text=%E3%81%84%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%84%E3%82%AA%E3%82%BF%E3%82%AF%E3%81%9F%E3%81%A1%E3%81%8C%E3%82%82%E3%81%9F%E3%82%89%E3%81%97,%E5%86%86%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%81%BC%81>

齋藤風韻(2021)「推しとファンの関係性ー「推す」という「愛」とその正体ー」2020年専修大学社会学芸大会

並川 努 新潟大学、谷 伊織 東海学園大学、脇田 貴文 関西大学、熊谷 龍一 東北大学、中根 愛 NTT サイバーソリューション研究所、野口 裕之 名古屋大学(2012)「Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討」心理学研究 2012年

河越麻祐、岡田みゆき(2012)「大学生の自己肯定感に及ぼす影響要因」日本家政学会誌

FRIDAI DIGITAL「いただき女子りりちゃん。衝撃事件その後」(2024年2月27日閲覧) <https://news.yahoo.co.jp/articles/3949c37f33ef5b621fc69d4b1cc51aa1a2f6000c>

同担拒否まとめ.com「あんスタ同担拒否事件を3分で理解するための完全ガイド」
(2024年2月27日閲覧) <https://doutankyohi.com/ibento/ensemblestars/>

現代メディア「過激化するパパ活の深い闇」(2024年2月27日閲覧)
<https://gendai.media/articles/-/59241?page=2>